

数が主塊茎から副塊茎に移行する過程で、主塊茎の衰退を副塊茎の発達がかバーしきれていないことが考えられた。これを解決するためには、主塊茎の発達を維持すること、あるいは副塊茎の発達を促すことが考えられる。前者については、主塊茎は真上に伸長して地表に露出しやすいため、乾燥害や凍寒害により衰退するのではないかと考えられ、土寄せによる露出防止が有効ではないかと思われる。しかし、近年は除草労力軽減のためマルチや抑草シートを据え置く生産者が増加しており、実施は難しい。一方、後者については、すぐに実施可能な技術は思い当たらないが、もし副塊茎の形成を促す技術が今後開発されれば、1年生株に用いて副塊茎数を確保することで収量低下予防に有効と思われる。また、図-5Bのように二次副塊茎以降は発達が

遅いため収量への貢献が低く、花茎数過剰となり株仕立て作業の煩雑化の原因ともなりうるため、二次副塊茎以降については形成を抑制する技術も有効と思われる。

現在、リンドウに用いられている植調剤はジベレリンのみであり（使用目的は発芽促進と生育促進）、ジベレリンが塊茎の形成発達に与える影響は十分に解明されていない。ジベレリンおよびその他植調剤等がリンドウの塊茎の形成発達に与える影響が解明され、切り花収量を長期にわたって維持する栽培技術が開発されることを期待する。

#### 引用文献

- 阿部弘 2012. 塊茎と花茎の着生順に基づいたエゾリンドウの株分解法. 園学研 11(別2), 269.
- 阿部弘 2015. リンドウ栽培株における塊茎の発達と越冬芽の発生. 園学研 14(別1),

229.

- 阿部弘ら 2016. エゾリンドウにおける塊茎の発達様式と株齢による花茎生産性の変動. 園学研 15, 267-273.
- 阿部弘 2016. リンドウ 栽培の基礎 生育と生理・生態 (4) 塊茎の発達から見たリンドウの生育. p. 512 の2-6. 農業技術大系. 花卉編 9. 農文協, 東京.
- 阿部弘・小田島雅 2017. ササリンドウ 2~4年生株における塊茎と花茎の生育. 園学研 16(別1), 228.
- 小林隆 1994. リンドウ 栽培の基礎 生育と生理・生態 (1) 形態形成. p.509-510. 農業技術大系. 花卉編 9. 農文協, 東京.
- 佐藤裕則ら 1988. リンドウの越冬芽の発生・発育とさし芽法. 山形園試研報 7, 24-41.
- 山中昭雄 1978. 低標高地におけるリンドウの根株養成と促成栽培に関する研究. 栃木農試研報 24, 13-31
- 吉池貞蔵 1992. II 原種と特性 1 育種素材としての原種とその特性. p.5-17. 花専科・育種と栽培 リンドウ. 誠文堂新光社, 東京.

#### 田畑の草種

#### 小繁縷・繁縷・波久培良 ・日出草・朝しらげ(コハコベ)

ナデシコ科ハコベ属の一年生~越年生草本。庭、畑地、空き地、道端など、どこにでも生える。茎は分枝して株となって四方に広がる。草高10~30cm。厳冬期や盛夏を除いて、ほぼ一年中花をつける。花弁は5枚であるが深裂して10枚に見える。長い間、在来のみドリハコベと区別されずに「はこべ」として扱われてきたが、近年になって両者が分けられ、茎が赤みを帯びること、雄蕊が1~7本とやや少なく、種子の突起が尖らないことなどでみドリハコベと区別される。

史前帰化植物とされ、日本へは麦作と一緒に入ってきたと考えられている。約二千年前には早春の若菜としてどこにでも見られたであろうし、万葉人たちにも親しまれていたはずである。その「はこべ」の語源については諸説あるが、「波久培良」が訛ったものとも。ところが、この、如何にも万葉仮名のような「波久培良」であるが、古事記にも万葉集にも出てはこない。さらには「源氏物語」や「枕草子」にもみられず、万葉人から平安

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

貴族たちには芹や薺と一緒に「春菜」として扱われていた。「波久培良」の名は、平安中期の本草書「本草和名」まで待つことになる。

「芹 薺 御形 繁縷 仏座 菘 蘿蔔 これぞ七草」と詠われたように、春の七草の一つであるが、近代まで、芹や薺のように歌や俳句に詠まれることはなかった。

畦草の繁縷もくもくと繁りたり

幼ごころ湧きて寝ころがりたき (窪田空穂)

あたたかくそそぐ雨かも垣の根に

かつがつ芽ぐむ冬のはこべら (太田水穂)

遮断機にはこべは去年の座をひろげ

尼若くはこべ踏んでも笑いこけ (中村汀女)

庭先のはこべひとつで粥を炊き

もちろん「はこべ」は春の季語である。